

NEWS LETTER

1. イベント開催報告

3月3日（木）に2021年度第3回FD教員セミナーを開催しました。100名を超える参加者をオンラインで迎え、授業の著作物取り扱いと運営工夫の2つのテーマについて理解を深めました。

第一部では「ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する」と題し、教員から寄せられた事前質問へ答える形で帝京大学共通教育センターセンター長の木村友久教授にご講演いただきました。

第二部では、「学生が選ぶベストティーチャー賞」受賞教員である経営学部の川島健司教授、法学部の植木紀子教授に授業運営の工夫についてご講演いただきました。

いずれも対面やオンラインで授業を実施する教員にとって貴重な情報を共有できる機会となりました。 <参加者数：109名>

【第一部】ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する

木村先生からは、まず改正著作権法に絡め著作物・著作権・SARTRASについて概要説明があり、改正35条で規制強化される異時公衆送信に関して、授業資料の動画やスライドをオンライン上で配信するポイントが紹介されました。

その後、本学教員から寄せられた質問に対して、共通回答と個別回答に分け、解説がありました。共通回答では、SARTRAS加入により概ね教育目的の著作物活用はできるが、著作権者の利益を不当に害さないことが重要であり、利用の際は必要な箇所を絞り、必要な公開期間と不要な流布を制限する手当など具体的な説明がありました。また、多くの場合で引用の考え方が適用されること、個別契約で受信できるコンテンツに対する改正著作権法の「上書き問題」が現在検討中であることも紹介されました。個別回答では、公的機関が配信するネット上のコンテンツ、建物・モニュメント・列車・船舶・自動車・古文書など美術品、新聞記事やニュース、問題集や資格試験などの過去問題集など取り扱う際のポイントを個別に解説していただきました。

【第二部】学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫

◆川島健司教授 ～withコロナの学生が求めるオンライン授業とは？－仮説・実践・課題

オンデマンド授業を実施されていた川島先生から、スライドを使って以下のようなご紹介をいただき、各種オンラインツールについても具体的にご説明いただきました。

- ・学生へのアンケートから見てきたオンライン授業で満たすべき要件、避けるべき要件
- ・オンライン授業の目的は「学生に連帯感・達成感を与えること」
- ・オンライン授業の鍵は「学生をつなげるプラットフォームを作ること」
- ・動画はスタジオ撮影の授業はオンデマンドシステムで、Zoomで制作したものは、YouTubeで配信（限定公開）した。
- ・学習支援システムを活用し、個別の問題で理解度テストを実施した。
- ・Googleフォームを活用して授業へのコメントをニックネームで募り、それを一覧化して共有し、翌週それに対する受講生間でのコメントも集めて共有した。
- ・自己評価に使える情報源（学習支援システムの統計量・アンケート・Googleアナリティクス）も活用した。
- ・オンラインで築いた関係をどのようにオフラインの関係につなげるか、授業支援アシスタントをどのように活用していくかが課題。



2021年度第3回FD教員セミナー

FD

日時 2022年3月3日（木）
18時～20時（予定）

方法 Zoomによるオンライン開催
※録画による後日配信は行いません

対象 本学教員（専任教員・兼任講師）

定員 なし

プログラム（予定）

18:00	開会挨拶
18:05	【第一部】ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する 事前に質問を募集し、それらにお答えします。 <small>講演者：木村 友久（帝京大学共通教育センター センター長・教授）</small>
19:10	【第二部】学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫 <small>講演者：川島 健司（経営学部教授）2020/2021年度受賞 植木 紀子（法学部教授）2020/2021年度受賞</small>
19:55	閉会挨拶

右記のQRコードから、またはURLにアクセスし、指定の申込フォームにてお申込みください。合わせて第一部へのご質問をご入力ください。
(URL : <https://forms.gle/kv1RPD9bmCvs1ur57>)

参加申込み方法

申込締切：2022年2月28日（月）

※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス (...@hosei.ac.jp) をご入力ください。
※個人情報厳重に管理し、本イベント以外の目的で使用いたしません。

主催：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

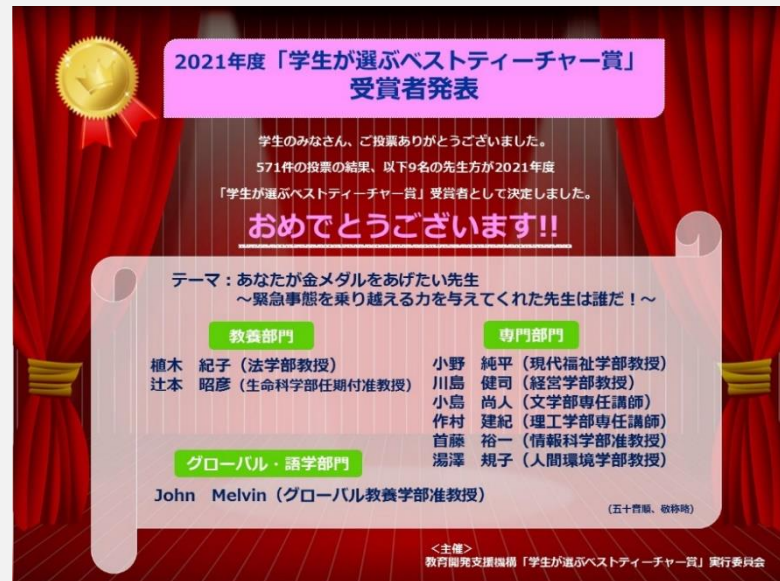
TEL: 03-3264-4268 E-Mail: kyoiku@hosei.ac.jp

◆植木紀子教授

～オンライン授業ならではの課題とその工夫について

リアルタイムオンライン・ハイフレックス型の授業を実施されていた植木先生は、実際の授業の様子を動画として共有しながら、具体的な工夫のポイントをご紹介くださいました。

- ・板書のスタイルをそのまま配信するため、研究室にホワイトボード・三脚とカメラ・PCを設置した。
- ・参考のためYouTuberの動画を見て、自分も盛り上がって楽しんでいこうと工夫を重ねた。
- ・実験の授業は、学生の代わりに教員が実験を行うスタイルで、顕微鏡の映像も見せるようにした。
- ・ハイフレックス型では、オンラインで参加している学生が疎外感を感じていることがわかり、Zoomのリアクション・投票・チャットを利用して参加を促した。
- ・質問にはすべて回答し、ラジオ形式の音声で回答したものは学習支援システムで共有した。
- ・学生の意見を知り改善に役立てることが重要。学習支援システムのアンケート機能、授業改善アンケート、授業リフレクションのための学生による授業参観制度を活用した。



参加者アンケートより

<第一部：ズバリ一問一答、授業目的公衆送信制度をより理解する>

- ◆木村先生に事前にお送りした質問に答えていただき、疑問が解消した。今回「一問一答」で知りたいことにお答えいただく形式は大変ありがたかった。
- ◆授業目的公衆送信制度やサートラスについて知識が増えた。具体的な講義内容を想定して木村先生がお話しくださり理解しやすかった。資料を確認しながら、自身の講義では十分注意して取り組みたいと思った。
- ◆著作権については、曖昧なことがたくさんあったが、「質問」という具体例の解説があって少し安心した。

<第二部：学生が選ぶベストティーチャーによる授業運営の工夫>

- ◆ベストティーチャーの先生方の授業に臨む意欲と工夫に感服した。
- ◆良い授業はやはり教員側のコミットメントと努力が欠かせないということを実感した。本日のお話も、間に一度も飽きることがなく、私も受講してみたいとすら思った。さすが！ありがとうございました。
- ◆両先生の実践報告は、工夫に満ちていて参考になった。未使用のツール（ソフト）に大変関心を持ったので、使ってみたいと思う。
- ◆両先生のオンライン授業のご実践の具体例・課題等をわかりやすく提示していただき、大変参考になった。ありがとうございました。自分の授業にも多々取り入れてみようと思った。
- ◆川島先生の授業例は5つのPを実践されていて、特にニックネームを使っての交流をやってみようと思った。
- ◆川島先生のお話で、アンケート結果を公開して、さらにコメントのコメントという視点が刺激的だった。
- ◆フィードバックの方法でツールの活用が印象的だった。学習支援システムとGoogle formの併用は試したいと思った。
- ◆植木先生の授業は楽しそうで、「楽しいよ」という発信はとても重要と感じた。
- ◆植木先生のフィードバック法で音声での質問回答について知らなかったのが、大変参考になった。
- ◆植木先生の講演では、実際のオンライン授業を拝見させていただき、自分の授業にも参考になるアイデアを具体的に知ることができ、大変有益だった。ありがとうございました。

<第一部・第二部共通>

- ◆今回は、オンライン授業の実施にあたり注意すべき点とオンライン授業の実施に工夫された先生方の経験を聞く機会をいただきとても勉強になった。
- ◆いずれもオンライン環境での授業2年目を迎えた私にとっては非常に貴重な機会で、大いに参考になった。
- ◆来年度の講義に向けた対応に関連する大変タイムリーな内容で、有意義な研修会であった。

【お問い合わせ】

法政大学 教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター
Webサイト：<https://www.hoseiyoiku.jp/lf/>

